

②9 防災啓発でSDGs達成に貢献 ～多様な繋がりで「大雨から誰ひとり取り残さない」地域社会を目指して～

受賞機関 一般社団法人 中部地域づくり協会

キーワード 早期避難に向けた意識改革、浸水体験VR、防災講座、大雨から誰ひとり取り残さない地域社会

全建賞審査委員会の評価ポイント

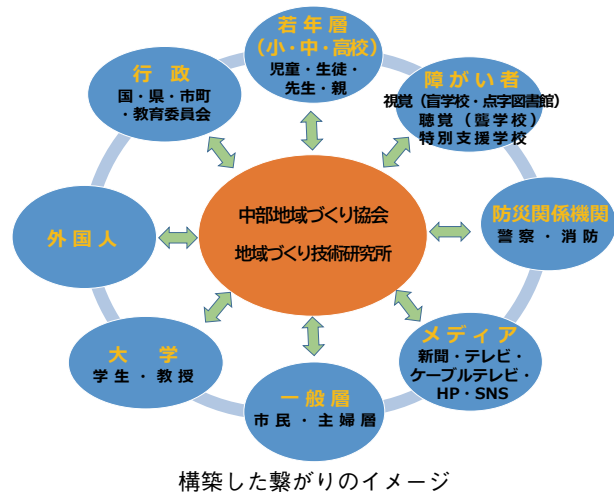
多様な繋がりで「大雨から誰ひとり取り残さない」地域社会を目指した防災啓発の取組。若年層や障害者、外国人など含む幅広い層の住民を対象として、VR技術も活用しながら早期避難に向けた意識改革を促した点や、多様な機関等とのつながりを構築し、多くの啓発機会を創出して、多くの人の防災意識の向上を図っている点が評価された。

1. はじめに

近年、大規模な水害に見舞われていない中部地域において、「大雨から誰ひとり取り残さない」逃げ遅れゼロに向け、①幅広い年齢層に「伝わる」、②防災に関心の薄い人に「伝わる」、③ダイバーシティ（多様性）、④継続性の4つの視点を設定し、多様な機関との繋がりの構築により目標の達成を目指した。

2. 事業の概要

国、県、市町、警察、消防、教育委員会、小・中・高校、大学、外国人の方、障がいのある方など様々な機関との繋がりにより、29校での防災講座の実施や30回の防災イベントなどへの参加により、早期避難に向けた意識改革を図った。



3. 事業の成果

若年層へ向けた啓発として、教育委員会・小・中・高校との繋がりを構築し、愛知県、岐阜県を中心に防災講座を実施した。受講した児童・生徒数は令和5年3月末現在で約2,700人となった。講座では、当協会が所有する浸水体験VRや身近なペットボトルを用いた防災科学実験などを取り入れ、体験型・参加型として実施した。

アンケートでは約90%が早く避難したいと回答しており効果が伺える。また、子供たちの命を預かる先生方もVR体験と講座の聴講によって、防災意識の向上に繋がっている。さらに、学校行事に参加し保護者などにも早期避難の重要性を伝えた。講座では自宅で家族との話し合いを促し、「子供から親へ」の意識拡大を図った。

また、障がいのある方へ向けた啓発の一つとして、聾学校・特別支援学校で防災講座を行った。「自分一人で考えて避難できるようにしたい。」「いつくるかわからない災害のために家で話し合いをしたい。」などの意見があり、早期避難や事前の備えに向けた動機づけになっていることも確認できた。視覚障がいのある方には、防災啓発冊子の点字版を作成し、中部管内の盲学校、点字図書館に寄贈した。

一般の方に向けては、行政・大学など様々な機関との繋がりによる啓発を行い、国・自治体の防災訓練・イベントでのVRによる浸水体験、市民向け防災講座などを実施した。VR体験を通して、水害を経験していない自治体の防災担当職員の防災意識向上にも繋がっている。また、これらの取組が、自治体の広報誌に掲載されることで、地域の住民の目に触れる機会が創出されている。

外国人の方に向けては、自治体主催の外国人防災講座で、VR体験と講義を実施するとともに、浸水疑似体験映像のポルトガル語版・英語版を制作し、動画サイトで配信した。



外国人の方に向けた防災講座の様子

4. おわりに

様々な機関との繋がりにより、啓発活動は大きく広がった。今後、医療・福祉関係や障がい者施設との取組も予定しており、引き続き「大雨から誰ひとり取り残さない」地域社会を目指して、活動を推進して行きたい。